

【トラック 4】

ママも加わり 4 Pセックス。ママフェラからの騎乗位で双子は両耳囁き両耳舐め責め

(りお声の向き：正面 距離：普通)

ママ

「りおー？ゆきー？入るわよお」

ドア開く SE

りおゆき

「…わぁっ、やばっ」

ママ

「(裸の3人を見てママビックリ)」

…！！…3人とも、これはどういうことなの？」

ゆき

「…ママぁ…はぁはぁ」

りお

「やっぱー、ママにばれちった…」

ママ

「…先生？これはどういうことですか？」

いえ、言わなくても分かります…。

きっとうちの子達がちょっかい出してきたんですね。

躰がなくなっていて、本当にごめんなさいね…。

でも先生？流石にこれは許されませんよ…？

先生ってば、JK に誘惑されて無責任に中出ししちゃうロリコンど変態なんですか…？！

違う…？

ふふ…そうですよね…違いますよね。

分かっていますよ、

先生は JK にからかわれて発情する変態口リコンなんかじゃないですもんね…。

それでは証明してくれませんか…？

先生が口リコンじゃないってことを…。

ふふ、私の言わんとしてることが分かりますか…？

そう、大人の私とセックスできたら、口リコンじゃありませんよね？

もう、さっきからオスの匂いが部屋に充満してたまりませんわ。

この匂いを嗅ぐとウズウズしてきちゃう…！

どうしてくれるんですの？

私、夫からもずっとしてもらえてなくて…たまっているんです。

え？できないなんて…

そんなことないですよ？

さもなくば、変態口リコンとして先生を訴えますよ？いいんですか…？

先生、まだお若いんでしょう…？

こんなことで先生の人生台無しにしたいんでしょう？

先生が変態口リコンじゃないってこと、身体で証明してください。

大丈夫です。怖くないですよ～。

先生、頑張りすぎて疲れちゃったんですね。

ママが優しく大人のセックスを教えてあげます。

先生、ペニス、失礼しますね。

私が本当のフェラチオを教えてあげます。

…ああああ～んん……ん…

(フェラチオ開始りおのフェラチオよりも激しめ。いきなり激しい)

ン…ちゅちゅ……ちゅううう。

じゅうう…じゅるじゅる…

じゅるるるる…っ

(啜えながら) どうれすか…？おこちゃまのフェラとは全然違うれしょ？  
あら…いきなり激しすぎたかしら。  
最初はあ、亀頭からゆっくり責めてあげるう…  
ちゅちゅ…ちゅちゅる…ちゅぱちゅぱ…」

ゆき

「(囁き) 残念です…ママに見つかってしまいましたね…。  
ママのテクニクは本当にすごいんですよ。」セリフ抜け…

ママ

「次はあ…タマタマを口に含んで…ああうむう…  
れえろれえろ…  
レ□レ□レ□レ□…  
レ□レ□…  
んふう…  
れえろれえろ…  
レ□レ□レ□レ□…  
レ□レ□…ちゅうううううっ  
ん…っ  
ちゅぽんっ」

りお

「(囁き) ママのフェラチオには勝てないんだよね～。  
実は前のカテキョも、その前のカテキョも、ママにとられちゃってさ…」

ママ

「次はあ、竿を下から上に舐めあげてえ…  
れえええええええろおおお……  
れえええええええろおおお……  
れえええええええろおおお……  
んん…っちゅちゅ…  
れえええええええろおおお……  
れえええええええろおおお……  
れえええええええろおおお……」

ゆき

「ママにかかればどんな男の人も骨抜きになっちゃうんです。  
ママの舌が先生のおちんちんをねっとり密着して離さないでしょう…？  
ねっとり…ねっとり…ねっとり、  
ほら、お口の中ねっちょねちょ…。ねっちょねちょ…  
頬の肉が先生のおちんちんをとらえて離さない…。  
先生、頑張って耐えてください。」

ママ

「ふふ…っ、今にも暴発（ぼうはつ）しそう♪  
好きなときに好きなだけ出してくださいね。  
…私の舌でえ…先生のペニスを…すっぽり加えてえ…  
ああうむう…じゅる…  
ちゅぽっ、んはぁ♡  
じゅるるる…っちゅぽ…んっ  
じゅるるる…っちゅぽ  
…ううん…ちゅちゅ…ちゅちゅる…っ  
ちゅるちゅるちゅちゅちゅる…っ  
んはッ…  
じゅるるる…っちゅぽ  
じゅるるる…っちゅぽ  
…ううん…  
（徐々に激しくなっていく）  
じゅるるるるるっ、  
ちゅうううううっんっ  
じゅるるるるるっんんッ  
ちゅうううううっ  
じゅるるるるるっ、んッ  
ちゅうううううっ  
じゅるるるるるっ  
ちゅうううううっ  
じゅるるるるるるうっ  
ちゅうううううっ  
じゅるるるるるるうっ  
はぁはぁはぁはぁ」

(りお声の向き：左 距離：ゼロ距離)

りお

「舌のあったかさと、唾液のヌルヌルがおちんぽ包み込んであったかいでしょ？  
熱くて熱くて…お口の中気持ちいいよね？今にも爆発しそうだよ？  
こうなったら先生、もう真面目なんてやめてバカになっちゃえ♪  
バカになった方が人生楽しいよ～～？  
ほらほら～何にも考えず～馬鹿になろ？  
バカになれっ♪バカになれ♡バカになれ～ばかばかばあ～か♪  
バカになれ…馬鹿になれ♪  
バカになれ…馬鹿になれ…  
ばかばか…ばあ～か♡」

ゆき

「バカになれ…馬鹿になれ♪  
バカになれ…馬鹿になれ…  
ばかばか…ばあ～か♡  
ふふ、先生のお耳熱くなってますよ…？  
はああ…先生、出そうなんですか？出そうなんですね？」

りお

「(囁き) ママのねっとりした舌やばいもんねえ♡出しちゃえ♡  
人妻お口まんこにーばい出しちゃえ」

ママ

「(クライマックス。最も激しく)  
んはあ…じゅぼじゅぼじゅぼっ  
じゅっぼっ、じゅっぼっ、  
じゅるるるるるうっ  
ちゅうううううっ  
じゅぼじゅぼじゅぼっ  
じゅっぼっ、じゅっぼっ、  
じゅるるるるるうっ  
ちゅうううううっ」

ゆき

「出して」

りお

「出して♪」

ゆき

「出して出して出して♡」

りお

「(囁き) 出しちゃえ出しちゃえ出しちゃえ♡」

ゆきりお

「(囁き) せーのっ…ぴゅっ、ぴゅっ、ぴゅーう、  
ぴゅっ、ぴゅー…っ……ぴゅー——う…っ  
ぴゅるるるっ、ぴゅー——う♪」

ママ

「ん……うう～～！（射精）

ん…（ごっくん。）

ぷはあ、はあはあはあはあ」

りお

「先生、すごい♪いっぱい出せたね」

ゆき

「先生、よくできました。えらいですよ♪」

ママ

「はあはあはあ…ふふ、すごい勢いで溢れちゃってる♡  
さすが先生…私が見込んだ通り…  
このしっかりした肉体…  
体から溢れるフェロモン…  
先生は大人のセックスの素質があると思っていたの。」

子供たちの未熟なセックスじゃ物足りないでしょう？  
ママが大人のセックス、教えてあげますわ♡

先生の上…失礼しますね。

…んしょっと…。(騎乗位)  
はあはあ…先生の若くてたくましいおちんちん、おまんこに当たってるう…  
はあはあはあ……  
ぐっちゅぐっちゅ…  
ぐっちゅぐっちゅ…

ふふ、おまんこいっぱい濡れてるでしょう？  
こうしてこするたび…ん…くちゅくちゅ音を立てている…  
私のお汁と先生の精子が交じり合って…  
エッチな音が響く…♪

ほら、もう入っちゃうわよ♡

(挿入) んん…んんんんんっ♡んっ！  
あ…入ったあ…あっ。はあ…ん♡はあはあ……

先生の精子のヌルヌルと、  
大人まんこのぬるぬるですぐ入っちゃいましたね。

はあん…どうですかあ？  
子供たちの方がおまんこの締めりは良かったでしょうけど…  
大人まんこはペニスに合わせて形を変えられるの。  
適度な圧力でペニスを包み込んで、気持ちいでしょう？  
大人まんこがペニスにねっとり絡みついて、暖かくて…

ふうん…♡挿入してるだけで昇天しそう…ね♡

ではあ…動かしますね…っ

ふっ、んっ、んんっ、はっ、ふうっ、はっ、ああんっ、あっあっああんっ

あっ、いいですね、先生っ、やっぱり先生は最高のペニスの持ち主ですう、  
先生のこと、ずーといいなと思ってみていたんですよ…気づいてましたか…？  
はあはあ。ずっとずっと先生のこと見てたんですよおっ、

はあんっ、んっんっんっ、んっふっふっ、

はっ、ああんっ、

はっ、あっあっあっああっあっ、ああっああんッ

はあはあはあはあ…はあはあはあはあ…

はあああああ、はあああああ、

んん…っ

あっ、あっあっ、あっ、あっ、あッ

んっんっんっ、んっふっふっ、

はっ、ああんっ、

はっ、あっあっあっああっあっ、ああっああんッ

はあはあはあはあ…はあはあはあはあ…

おおん♪おっおっほおおんっ、

んんっ、んはっ、はっあっ、あっ、あっ、んっんっ、んっ、

おっおっおっおっおっおっ

はっあっ、あっ、あっ、んっんっ、んっ、

はあん、あん、あんっ、あんんっ

ひゃああんっ

はあ…ああ…ああっ、先生、いいですよ、いいですっ、もうすごいつ、夫より良いつ、  
これ良いつ、良いつ、ああ、良い！

あっあっあっああっあっ、ああっああんッ

」

(りお声の向き：左 距離：ゼロ距離)

りお

「やばあ…。ママのおっぱいでかいよねえ。  
りお達のおっぱいとは比べものにならないや。  
子供二人育ててるんだもんね～  
ママのおっぱい、腰を振るたびぷるんぷるんってすごい勢いで跳ねてるよ。  
腰を上下するたび、たぷんたぷんって…  
でかおっぱい、やばあ…。  
ねね、ママのおっぱい触ってみ？  
ほらほらあ、めーちゃ柔らかいでしょ？むにゅむにゅーって。  
あ、ほらほら、乳首触るとめっちゃ感じてるよお。  
あんあん言ってるー  
ふふ、ママ、今軽くイッたんじゃん？  
先生がイカせたんだよお、先生すごい♡」

ゆき

「先生♡ママの身体の具合はどうか？  
JKの身体と人妻の身体、今日1日で味わい尽くしちゃいましたね♪  
昨日まで童貞だったのに、もう経験人数3人になりましたよ。  
おめでとうございます先生♡

いけないんですよ、JKとあーんなことしたり、人妻とこーんなことしてえ…  
罰として、ずーとゆきたちの家庭教師して、エッチなお勉強続けてくださいね？  
ふふ、ママと一緒に先生がイケるように、  
ゆきが先生のお耳を舐めてお手伝いしてあげますね。  
あああ…んん…（耳舐め2分）」

(りお声の向き：左 距離：ゼロ距離)

りお

「りおも、先生のこと応援してあげるね。  
お耳、食べてあげる。  
いただきます……………。  
ちゅちゅ…ちゅば… (耳舐め浅め1分 深い耳奥耳舐め1分)」

ママ喘ぎ

ママ

「あんんっあんんっこの感じっ、久しぶりっ  
もうずっとたまってたのっ、こうしたかったのおっ  
あああんっ、あんんっ

先生、ママのおまんこで精子受け止めますからっ、  
そのまま最後の一滴まで全部出してっ、  
欲求不満な人妻まんこに孕ませてえええっ  
イクからっ、イク…からあっ、  
イク…はああ、イクイクイクイクイグ…はあううううんんん…つつ (射精)  
んんんんんっ……つつっ！はああああ…っ  
はあはあ…はあ…はあ…  
すっごおい…♡」

(りお声の向き：正面 距離：普通)

りお

「精子出ちゃったね♪  
わー、ママのおまんこから白いのドロドロ溢れてんじゃん。  
先生って初めてなのに凄くない？  
セックスの才能めっちゃあるんじゃない？」

ママ

「もう…実の娘にそんなにまじまじと見られたら恥ずかしいわ」

ゆき

「わ…すごいです。ママのおまんこじゃ受け止めきれないぐらいの量…！  
ああん…もったいないので…あふれ出た精子…ゆき頂いちゃいますね…  
あん…くちゅくちゅ…ちゅぱちゅぱ…ちゅるるるる」

ママ

「もう、何するのぉ…ああん…くすぐったいわぁ…あぁっ  
ああん…はぁぁぁぁ…はぁはぁ…あん…ん…はぁはぁはぁはぁ…」

りお

「りおも、舐めとる…ちゅるるる…ちゅう…  
んん…ママの毛が口に入っちゃうう…ちゅぱちゅぱ…ちゅる…じゅる  
ちゅるるる…ん…ちゅぱ」

ゆき

「ふふ、先生のおちんちんの匂いもしますわ。  
最後はゆきとりおで、先生のおちんちん綺麗にしておあげますね。  
レエエエエロ…レエエエエロ…」

りおゆき

「れーろ…れえええろ…ちゅぱ…ちゅちゅ…ちゅう…  
ン…ちゅ…ちゅぱ…ちゅるる…ちゅる…れろれろれろ…」

ゆき

「んふふ、綺麗になりました♡」

りお

「せんせ、お疲れ様でした♪」

ゆき

「先生♡これからも私たち姉妹にお勉強教えに来てくださいね。  
そしてたまにはこうやって…エッチなお勉強、私たちが教えてあげます。  
これからもずーと、」

ママゆきりお

「楽しいお勉強しましょうね先生♡」